

学校教育の柱 1 保幼小接続・小中一貫教育の推進

小中一貫教育では、15歳の子どもの像を共有した上で、子どものつまずきがどこでどのように生じているかを認識し、「わかる・できる・楽しい授業」を実践していきます。特につまずくことが多い、中学校進学時については、学びのエリアの小・中学校間で教員の交換授業を行うなどの取組を行い、小学校から中学校への接続を円滑に進めるよう努めています。また、本区では小中一貫教育を貫き育てたい資質・能力を、生涯にわたって学び変え続ける自己学習力や自己決断力を育むための「読み解く力」として捉え、9年間を通し国語科のみならず全教科等で育んでいます。



カリキュラム・マネジメントとは

各教科、道徳、総合的な学習、特別活動（部活動など）などについての目標や教育の内容を編制した計画を教育課程といいます。学校を卒業した後も見通し、育成をめざす資質・能力をしっかりと見据え、教科横断的な視点で教育課程を編成し、質の向上を図ることがカリキュラム・マネジメントです。

板橋区では、未来を担う人に必要とされる資質・能力を身に付けるために、義務教育9年間を通した指導計画である「板橋のi（あい）カリキュラム」を作成し、カリキュラム・マネジメントを推進しています。

板橋のi（あい）カリキュラム



教育課程





「読み解く力」ってなに？

「読み解く力」とは「教科書などの文章や図表などから読み取ったこと（認識 Input）を基にして、分かったこと、考えたこと（思考 Think）を相手に伝える力（表現 Output）」です。

AIなどの技術革新が進展する時代においては、求められる能力が

効率的に処理する能力

正確
スピード
処理件数

から

未知の課題を解決する能力

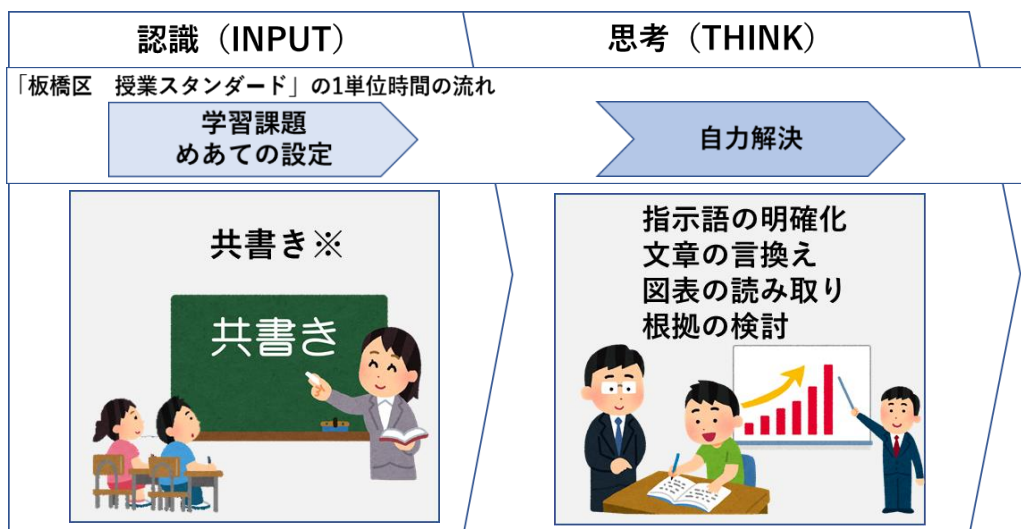
地球温暖化
飢餓
パンデミック

へと変わって
きています。

予測困難な時代においては、答えのない問題に対して、情報を収集し、未知の課題を解決していく能力が求められます。板橋区ではこの資質・能力を「読み解く力」として捉え、その育成に取り組んでいます。



板橋区では授業で基本としている学びのプロセスを「板橋区授業スタンダード」とし、



※ 教師が何を書くのか音読しながら板書し、子どもは同時に聞いてノートに写し、教師の板書と子どもの書写が同時に終わる板書記録法



「読み解く力」を支える力として「基礎的読解力」があります。「基礎的読解力」とは、文章や図表などから情報を正確に読み取るための基礎的な読む力で、国語のみならず、各教科でその育成を図っています。「徹底的に教科書を理解すること」を重視し、子ども自身に教科書を音読させるなど、教科書を徹底活用して「基礎的読解力」の育成を進めています。

また、「基礎的読解力」を育む取組の一つとして、RST（リーディングスキルテスト®）を実施しています。

穀類・いも類・砂糖の主な成分は炭水化物である。穀類・いも類には炭水化物のうちでんぷんが多く、砂糖はそのほとんどがしよ糖である。この文脈において、「そのほとんど」とは何のほとんどを指すか。最も適当なものを1つ選びなさい。

- ①穀類・いも類
- ②炭水化物
- ③でんぷん
- ④たんぱく質

リーディングスキルテストの例

出典：一般社団法人 教育のための科学研究所

「読み解く力」を育成する授業の例です。



雨温図の読み取り



発表の様子

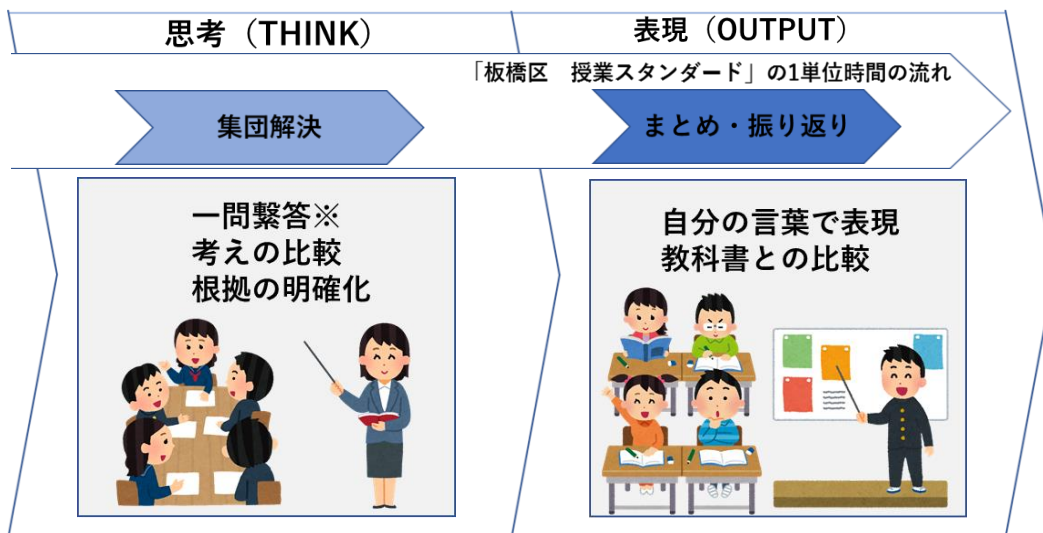
板橋第一中学校では「世界各地の人々の生活と環境」を題材とした社会科を実施し、雨温図や写真などを基に、気候ごとの生活や環境の特色、人々の暮らしの工夫を読み取り、根拠をもって文章で表現し、発表を行いました。



単純に知識を身に付けるだけではなく、グラフを読み取り、根拠を考え、自分の言葉で文章を表現することで、相手に伝えることを学んでいるのですね。



全小中学校で実践しています。「読み解く力」を育成する授業の基本的な流れはこのような感じです。



※ 先生が質問をして児童・生徒は答えて先に進める一問一答方式の授業ではなく、先生の質問について児童・生徒同士が思いや考えをつなげ、授業を進めていく方式

板橋区では、予測困難な時代において、子どもたちが社会で活躍し、生涯にわたって学び続ける力を高めるため、義務教育9年間で子どもたちに「読み解く力」を育成し、学力向上を図ります。「読み解く力」を詳しく解説したリーフレットをホームページで紹介しています。

授業だけではなく、日常生活や家庭においても、読書や、文化・芸術・自然体験活動を通じて、「読み解く力」を育むことができます。

「読み解く力」とは、これからの社会を生き抜くために必要な力なのです。



●保幼小の円滑な接続



幼児期は知的・情緒的な面でも、人間関係の面でも急速に成長する時期であり、この時期に経験しておかなければならないことを十分に行わせることは、人間形成や将来の充実した人生のために不可欠です。また、幼児期の適切な教育によって育まれる非認知的能力は、その後の学力の獲得や生き方全体に大きく影響するものとして、世界的にも注目されています。幼児期の教育は、その後に伸びるための力を養うことを念頭に置き、生涯にわたる学習の基礎を培うことを重視する必要があります。



幼稚園教育要領などに示されている、幼児期に育成すべき資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、いずれも遊びや生活を通して育むものであり、小学校における教育につながっていきます。



しかし、小学校で行う教科などの学習は幼児期の遊びや生活を通した一体的な学びとは異なるため、入学後すぐに適応しにくい子どもたちもいます。そこで、幼稚園や保育所においては就学に向け、幼稚園教育要領などに示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、就学前教育カリキュラム（板橋区では「アプローチカリキュラム」と呼称）を実施するなどの取組が重要になるとともに、幼稚園や保育所と小学校との円滑な接続が求められます。

また、小学校においては入学当初、児童や学校、地域の実情を踏まえ、生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫や弾力的な時間割の設定などを行う「スタートカリキュラム」を全区立小学校で整え、幼児期の教育からの円滑な接続が図られるようにすることが重要です。

区立幼稚園は「学びのエリア」を通じて区立小・中学校と連携しているところですが、私立学校である私立幼稚園は各園の建学の精神に基づく教育を行っていることから、区立小学校との連携の取組状況は、園により濃淡があるのが現状です。すべての子どもたちが健やかに育ち、円滑に小学校に適応できるようにするために、私立幼稚園と区立小学校との連携・接続をさらに推進していきます。

	No.	24	事業名	幼児期教育の充実（アプローチカリキュラムの推進）		
	担当部署			学務課		
事業概要						
<p>幼稚園では、遊びや生活を通して学び、育成すべき資質・能力を踏まえた、自発的な遊びを生み出せるよう、幼児が主体的に活動できる環境を整えます。区立及び私立幼稚園などが連携し、「読み聞かせ等の絵本に親しむ経験の充実」、「身近な動植物等への親しみや触れ合い」の取組を推進するとともに、「地域行事への参加や高齢者等との交流の促進」に向けた環境を整え、幼児期の教育を充実させます。なお、5歳後半以降の幼児に対しては、小学校の生活や学びにつながるよう工夫されたアプローチカリキュラムを作成し、公私立幼稚園・公私立保育所に示すことで、小学校への円滑な接続に向けた教育を行います。</p>						
取組における視点						
<p>幼稚園がアプローチカリキュラムを実践することで、園児が小学校入学当初に学校生活に円滑に適応していくことにつながり、誰一人取り残さない教育実現につながることを意識し、幼小で連携してカリキュラムのブラッシュアップを継続的に行い、より効果的なカリキュラムを作成し続けていきます。</p>						
目標	年度別計画					
	令和4年度	令和5年度		令和6・7年度		
<p>教育環境の充実を図るとともに、アプローチカリキュラムを実践し、保幼小の円滑な接続を図る</p>	<p>①区立幼稚園でアプローチカリキュラムを実践する ②私立幼稚園、保育所へ周知する</p>	<p>①公私立幼稚園・保育所でアプローチカリキュラムを実践する ②文部科学省が提示する（予定）5歳児教育プログラムを踏まえた改訂を検討する</p>		<p>①アプローチカリキュラムを実践する ②事例に基づいた改善を図る</p>		

	No.	25	事業名	私立幼稚園との連携による幼小接続の推進	
	担当部署			学務課	
事業概要					
<p>すべての子どもたちが円滑に小学校教育に適応していけるよう、私立幼稚園と小学校との連携・接続を強化していきます。また、区立幼稚園と私立幼稚園との交流会を実施するなど、交流・連携を深めることで、区内幼稚園全体で質の高い幼児教育を推進していきます。</p>					
取組における視点					
<p>小学校入学当初に学校生活に円滑に適応していくことは、誰一人取り残さない教育の実現につながることを意識し、私立幼稚園との連携を強化し、区内幼稚園教育を推進していきます。</p>					
目標	年度別計画				
	令和4年度	令和5年度	令和6・7年度		
私立幼稚園を学びのエリアに位置づけ、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを活用し、幼小の円滑な接続を図る	①区立幼稚園と私立幼稚園の交流会、保育参観(年2回程度)を実施する ②区立幼稚園におけるアプローチカリキュラムの実績を共有する	①学びのエリアに私立幼稚園を位置づける ②文部科学省が提示する(予定)5歳児教育プログラムを踏まえたアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの改訂を検討する	①学びのエリアごとにアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのより効果的な実践のための検討を行う		



	No.	26	事業名	保幼小のつながりある教育の推進(スタートカリキュラムの推進)	
	担当部署			指導室	
事業概要					
<p>これまで、幼児教育と小学校教育をつなぐため、子どもたちが小学校入学当初、学校生活に円滑に適応していくことを目的として、活動・体験を取り入れた授業や、分かりやすく学びやすい環境づくりなどの工夫について研究してきました。令和元(2019)年度には、その成果を「いたばしスタートカリキュラム」としてまとめ、小学校、区内幼稚園、区立保育所、入学予定の保護者に周知しました。今後も、各区立小学校におけるスタートカリキュラムの取組を継続し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続をめざします。</p>					
取組における視点					
<p>「いたばしスタートカリキュラム」の内容を、教員に向けて周知・啓発することで、区立小学校でスタートカリキュラムの質の向上を図り、保幼小の円滑な接続をめざします。</p>					
目標	4年間の取組				
保幼小の円滑な接続に資するスタートカリキュラムを毎年見直し、実践することで、小学校入学後も安心して学校生活に適應できる環境を整える	①スタートカリキュラムを推進するための組織的な取組について、教育課程に位置づけ実施する ②令和4年度にスタートカリキュラムの効果を検証する ③効果検証を踏まえ改善したスタートカリキュラムを教育課程に位置づける(令和5~7年度) ④スタートカリキュラムの工夫改善を図る研修を年間2回実施し、区立小学校のスタートカリキュラムの実践事例を共有する				



(2) 小中一貫教育の推進



「教育の板橋」の新たなイノベーションとして、令和2（2020）年度に小中一貫教育をスタートしました。学力の定着・向上、発達段階に寄り添った指導によるつまずきの防止、異年齢交流による社会性の向上をめざし、義務教育の9年間を通して系統性・連続性に配慮した教育を行い、これからの社会で活躍できる力をもった子どもたちを育成していきます。

板橋区ではこれまで、中学校区を中心とした区内22の学びのエリアにおいて小・中学校の教員間で合同研修や交流授業を行うなど、小中連携教育を進めてきました。小中一貫教育ではこの取組を充実、発展させ、学びのエリアごとに特性を踏まえた9年間の「めざす子ども像」と、それを実現するための教育活動の「基本方針」を設定、共有し、エリアの小・中学校が一体となって教育を行います。

また、板橋区の小中一貫教育カリキュラムである「板橋のi（あい）カリキュラム」により、義務教育9年間で意識した指導を行います。特に「読み解く力」、「環境教育」、「キャリア教育」、「郷土愛の育成」については、区の重点的な教育課題として9年間を見通したカリキュラムを作成し取り組んでいきます。

	No.	27	事業名	小中一貫教育の推進（「板橋のiカリキュラム」の作成・実践（iカリキュラム））	
	担当部署		指導室		
事業概要 区の重点的な教育課題である「読み解く力の育成」、「環境教育」、「キャリア教育」、「郷土愛の育成」について、義務教育9年間を通じた指導計画を作成しています。社会の変化に合わせて、それぞれの指導計画を見直し、加筆・修正を加えながら、その指導計画を「板橋のiカリキュラム」として区立小・中学校全教員で共有することで、小学校と中学校をつなぎ、義務教育9年間で意識した指導を行い、小中一貫教育を推進していきます。					
取組における視点 義務教育9年間を通して、系統性・連続性を意識した指導を行い、これからの社会で活躍できる力をもった子どもたちを育成します。					
目標			4年間の取組		
小中一貫教育(板橋のiカリキュラム)を推進し、義務教育9年間で意識した学びを実践することで、中学校入学時のつまずきを防止し、一層の学力の定着・向上を図り、未来を生き抜く力を身に付ける環境を整える			①カーボンニュートラルやアントレプレナーシップの視点を踏まえ、「環境教育」及び「キャリア教育」の指導計画の見直しを検討する ②「読み解く力」を土台として、「板橋のiカリキュラム」(環境教育・キャリア教育・郷土愛の育成)を活用し、各校の実態を踏まえ、義務教育9年間で意識した指導を実践する ③各校の優良事例を共有するとともに、義務教育9年間で意識した指導の充実を図る		

	No.	28	事業名	小中一貫教育の推進（「板橋のiカリキュラム」の作成・実践（郷土愛））	
	担当部署			教育支援センター	
事業概要					
<p>板橋のiカリキュラムの実践にあたり、令和元（2019）年度から3年間、指導計画の作成委員会を設置し、「社会科」、「生活・総合的な学習の時間」、「道徳科」の3部会を設け、学識経験者を交えながら、指導計画の作成を行っています。令和2（2020）年度には、「郷土愛の育成の取組—自立・貢献・共生・創造—いたばしを語れる子に」リーフレットを作成し、区立小・中学校全教員に配付しました。今後は、作成したリーフレットを基に、郷土愛「板橋を語れる子」の育成に取り組んでいきます。</p>					
取組における視点					
<p>板橋のiカリキュラムの実践にあたり、令和2（2020）年度に作成したリーフレットを基にした指導計画を作成し、授業を展開することで郷土愛の育成を図ります。</p>					
目標		年度別計画			
		令和4年度	令和5年度	令和6・7年度	
<p>「板橋のiカリキュラム」の実践により小中一貫教育を推進し、児童・生徒の郷土愛を育む</p>		<p>「絵本作り」、「一人一台端末を使用した地域巡り」の提案を軸に事業展開をしていく</p>	<p>「いたばしを語る場の設定」、「iCSの知恵を生かした地域課題の設定」の提案を軸に事業展開をしていく</p>	<p>令和5年度までの実践を踏まえ、学びのエリアごとに「板橋を語る」をテーマとした、それぞれの地域のことを紹介する会を実施する</p>	

	No.	29	事業名	カリキュラム・マネジメントの推進（STEAM教育の充実、SDGs教育の推進）	
	担当部署			指導室	
事業概要					
<p>これからの学校には、一人ひとりの児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、資質・能力を育成することが求められています。</p> <p>板橋区では、求められている資質・能力を育成するために必要な教育の在り方を具体化するため、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントを推進します。</p> <p>そのために、各学びのエリアで板橋のiカリキュラムの「環境教育」、「キャリア教育」、「郷土愛」のいずれかを中心として、総合的な学習の時間の質的改善をめざします。</p>					
取組における視点					
<p>小中一貫教育カリキュラム（単元配列表及び板橋のiカリキュラム）を活用し、各教育活動の内容を有機的に関連付け、SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえ、総合的な学習の時間を核として、カリキュラム・マネジメントの推進を図り、質的改善をめざします。</p>					
目標		年度別計画			
		令和4年度	令和5・6・7年度		
<p>SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントに全区立学校園で取り組み、その実践について周知・啓発していく</p>		<p>①総合的な学習の時間について、学びのエリアの共通項などを探る検討会を実施する</p> <p>②総合的な学習の時間に関わる研修で、各校の総合的な学習の時間の年間指導計画を見直す</p>	<p>①学びのエリア内で、各校年間1回以上、総合的な学習の時間の授業公開を行う</p> <p>②総合的な学習の時間に関わる研修で、各学びのエリアで公開された授業の成果と課題を共有する</p> <p>③各学びのエリアの授業実践及び成果と課題を取りまとめ、区内の区立学校園、保護者に周知・啓発する（令和7年度）</p>		